

今回は、歴史漫画刊行イベント『斎藤新五利治』の報告です。

◇ 研究者、漫画家、地域の皆さん、様々な方々とイベントに参加しました！

日時： 令和5年3月26日（日）13:00～16:15

場所： タウンホールとみか 大ホール

第一部：

報告「加治田城主斎藤新五利治とその生涯」 山内正明氏（富加町役場）

「歴史マンガ制作 地域の歴史を生かす実践報告」 地域研究部・文芸部

講演「戦国越中と月岡野合戦」 萩原大輔氏（富山市郷土博物館）

「戦国飛騨の街道と山城」 三好清超氏（飛騨市教育委員会）

パネルトーク コーディネーター 島田崇正氏（富加町教委）

渡辺浩行氏（漫画家） 山内正明氏 萩原大輔氏 三好清超氏

関高等学校地域研究部 杉浦良太郎代表 同文芸部 平山華音代表

関高等学校地域研究部 林直樹顧問

◇ 当日の様子 ～生徒の感想から～

美濃、飛騨、越中の地元で研究を続けている専門家による発表は、聞きごたえ十分でした。最先端の調査成果をわかりやすくお話いただけ、大変ためになりました。興味深かった点をいくつかあげてみます。

・京都阿弥陀寺の斎藤新五の墓石に刻まれた文章の分析について。墓自体は、江戸時代前期に作られたと考えられているが、すでに斎藤家の加治田支配が終焉を迎えていたにも関わらず、「かちたのしろぬし」（加治田の城主）、「きふのふなかふしの御とも也」（岐阜信長父子の御供なり）と、新五の業績が正しく伝えられていることに、驚きつつも感動しました。

・飛騨の勢力のうち、上杉方に近い江馬氏が越中東街道を、織田方の姉小路氏が越中西街道をそれぞれ支配していたことから、新五の越中攻めルートは西街道だったとの推測が成り立つとの話をうかがいました。考古学調査からわかる山城分布からみると、そのような考えができるとのことでした。地道な学問成果の素晴らしさを知りました。

・私たちは、月岡野の戦いのシナリオを書く際、萩原大輔さんの「自焼没落説」（上杉方が根城を織田方に渡さないよう自身で火を放って退散したとの説）を参考にしました。ところが萩原さんは講演の中で、織田方が火を放って上杉方を挑発した可能性も残されているとお話されていたので驚きました。歴史学・考古学は、様々な資料を駆使して歴史を復元していくのであって、資料をどう読み解き解釈するかで歴史理解がかわっていくのだなということ、今回、目の当たりにしたような気がします。



最後にパネルトークについて。研究者の方々や漫画の渡辺先生と一緒に壇上に上がり、とても緊張しましたが、始まったあとは楽しい時間を過ごせました。歴史学や考古学の地道な研究性によって歴史像が描かれ、さらに、漫画家や高校生の手によって、地域にも歴史の面白さや文化財の価値が広がっていく。そんな素晴らしい取り組みに企画段階から参加できことを誇りに思いますし、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。